県PTA広報とっとり

編集・発行／鳥取県 PTA 協議会
事務局 / 〒 680-0846 鳥取市扇町 21
県民ふれあい会館内
TEL0857-21-2285　FAX0857-21-0906
E-mail:tori-pta@gamma.ocn.ne.jp
http://www.tottori-pta.net/

68号のおもな内容

鳥取県ＰＴＡ研究大会報告…… 2
鳥取県ＰＴＡ協議会教育懇談会報告…… 3
優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰等表彰　… 4
日Ｐ全国協議会会長賞表彰…… 4
日Ｐ広報紙文部科学大臣賞…… 4
いじめに対する取り組み…… 5
「心のきずな６１キャンペーン」…… 5
第26回日中友好「少年少女の翼」…… 6

子どもたちの未来へ 夢を紡ぎ心を育てる

単位PTA活動の実践と絆で結ぶPTA

～きっと見つかる子どもたちへのメッセージ～

～鳥取県 PTA 研究大会におけるアトラクション～
八東平成太鼓グループチビッコ連の演奏

知恵を出した生活リズム向上策　鳥取県ＰＴＡ研究大会開催

今年度の鳥取県ＰＴＡ研究大会が、１２月８日（土）横濵鳥取県教育長をお迎えし国府町中央公民館で開催されました。当日は雪の舞う悪天候の中、県内各地より約２４０名のＰＴＡ会員が参加し、講演、発表を熱心に聴いていました。

大会は、アトラクションの「八東平成太鼓」の元気な演奏で始まり、続いて日野町泉龍寺の住職　三島道秀氏より「こころの笑顔」～こころから笑顔になっていますか～の講演がありました。その後鳥取県教育委員会から、各種の事業についての説明がありました。鳥取県委託事業「ＰＴＡによる子どもの生活リズム向上促進事業」取り組み２年目の学校の内、４校から報告があり、６校から文章での報告がありました。基本的生活習慣、家庭学習、朝食を摂る、挨拶運動、ノーテレビデー等、小中それぞれよく考えた取り組みがされていました。子どもや保護者の「やってみて良かった」との感想が心に残りました。

最後に県教育委員会の宮城家庭・地域教育課長より講評をいただき閉会しました。　（中江　巧）

鳥取県委託事業実施報告

「ＰＴＡによる子どもの生活リズム向上促進事業」

平成２４年度鳥取県委託事業の実施校のうち、４校の報告がありました。

鳥取市立 明徳小学校育成会

児童の生活実態調査アンケートを保護者に対して行い、その結果の報告研修会に多くの保護者に参加してもらうため土・日・平日の３日間開催したり、子どもの学力向上に対する保護者の意識改革のための茶話会、地域の力を借りるため学校支援ボランティア事業にも取り組んでいる。

倉吉市立 河北小学校ＰＴＡ

地域への転入者が多く地域の結びつきが弱いという特性から、学校・地域・家庭で無理なく継続できるあいさつ運動に取り組んでいる。朝の登校時以外にもスローガンの横断幕やたすきなどで、保護者の集まる機会を捉えて啓発を続けるとともに、地区社協、地区の保育園、中学校のＰＴＡとも協力し、継続的に実践する枠組みができている。

鳥取市立 南中学校ＰＴＡ

「寝る時刻」・「起きる時刻」・「家庭学習を開始する時刻」を生徒自ら設定し、生活リズムを守り、心身の健康づくりと学習習慣の定着を目標に取り組んでる。また、年５回生徒が自己評価したものを保護者が点検し感想･意見を書き込んで、それを「保健室だより」「学年だより」等で報告するなど、学校・家庭が連携した取り組みを行っている。成果として、基本生活習慣の定着と家庭学習の習慣化が図られ、学力向上につながっている。また、本事業を活用して著名な講師を招いて生徒・保護者啓発講演会を開催し、それが生徒や保護者の生活習慣を見直す絶好の機会となっている。

米子市立 弓ヶ浜中学校ＰＴＡ

基本生活習慣アンケートの結果、中学生になってから就寝時間が遅くなり不規則な生活になっている傾向があり、本人に自覚とやる気を持たせるには親子で協力して取り組むことが大切であると考え、アンケート結果を広報誌に掲載し啓発活動を行っている。また、地域の青少年育成会の協力であいさつ運動を行い、また年に１度、食育として地域で採れた材料で保護者が豚汁を作って昼食時に子どもたちに提供している。他にも校区の保育園・幼稚園・小学校・中学校でメディアコントロールを重点目標に「にこにこ家族会議」を年２回開催し、校区の子どもたちの生活リズム向上のきっかけにしている。結果として「テレビを見る時間が短くなった」「学習時間が増えた」との成果もあり、親子で話し合って安定した生活リズムを作るとともに、そのための意識付けが必要である。

（高橋　宏）

研究大会アンケート結果

昨年１２月８日（土）に開催された「平成２４年度鳥取県ＰＴＡ研究大会」のアンケート結果を集計しました。

【講演会について】
・忙しいと言わず子どもたちの話を聞き温かく見守りたい。
・自分自身子どもの目線に立ってサインを受け取っていなかった事が多くあったと反省。

【県委託事業について】（「ＰＴＡによる子どもの生活リズム向上促進事業」の取組みです）
・各校の知恵を絞った取組みは参考になった。
・出来る事を、無理なく続ける事が大事。

【今後の講演・研究テーマについての要望】
・親として子どもにどう関われば良いか？
・塾、習い事等で忙しい子どもたちに対し生活習慣定着のための工夫は？

【その他意見、要望】
・八東平成太鼓は、６年生は形ができ、下級生はのびのびとしており良かった。
・大規模、小規模校に関係なく、ＰＴＡ活動の意義を感じた。

委託事業は、同一テーマでの取組みですが、各校が知恵を出し取組まれています。良い「生活習慣」は、子どもたちの財産になります。そのためにすぐ実践でき、効果があるテーマは？方法は？と思いがちですが、一朝一夕にはできません。地道にそして楽しく続けることが大切だと思います。

講演会『自分自身を見直そう』

宗教法人　泉龍寺住職　三島道秀（みしまどうしゅう）氏による、「こころの笑顔」～こころから笑顔になっていますか～という演題での講演でした。

現在も子育てを実践しておられる三島住職の講演の骨子は、終始一貫して

「親を含む世の中が『忙しく』なっており、子どもに対する『情』がなくなっている。」

というものでした。

家庭というのは、うれしいことを話す場所であるはず、にも関わらず疲れてしかめっ面で帰宅してくる親たちは、子どものうれしい話を聞かないばかりか、話の途中で結論付けて終わらせてしまう。これは少なからず身に覚えのある保護者もいらっしゃると思います。

子どもは常に親の顔色を伺っている。親に心配をかけまいとする。社会でも家庭でも良い子でいなければならない彼らは、高校生の頃にはすっかり疲れ果ててしまい、自分自身を傷つけてしまう子どももいます。

子どもがそういった行動に出る理由としては、親を否定したいという深層心理によるものが大半で、親が話しを聞いてくれないというのが一つの原因だそうです。

三島住職のお寺は、不登校の子どもたちを預かることがあるそうで、その子たちは、お寺で修行することで情緒の安定を取り戻し家に帰る。ところが家に帰るとまた不安定な子どもに戻ってしまう。それは、子ども自身は変わっても、親が変わっていないからなのです。こういった問題を防ぐためには、親自身が心を入れ替え

「子どもの話を最後まで聞き、そしてその意志を尊重しそっと背中を押してやる」

このことを意識し、実践することが大切であることを教わりました。

（田辺昌宏）

鳥取県ＰＴＡ協議会「教育懇談会」を開催

平成２４年度鳥取県 PTA 協議会「教育懇談会」が、１月１２日鳥取市内白兎会館で開催されました。

はじめに、参加者が４つのグループに分かれ討議を行い、その後全体の懇談会が開催されました。グループ討議の議題は、①学校再編等について、②家庭教育・ＰＴＡの活性化について、③健康と体力つくり、④いじめや不登校など子どもの人権についての項目で、各グループとも活発に意見交換されました。

全体懇談会は鳥取県ＰＴＡ協議会横山会長の挨拶から始まり、鳥取県教育委員会横濵教育長からは、「いじめについてしっかり受け止める。活動では県ＰＴＡ協議会とは共通論点がある。来年度の教育行政について意見を聞きたい」と挨拶がありました。

グループ討議の報告後の意見交換では、ＰＴＡ出席者からの質問、意見に、教育長・教育委員会事務局から丁寧な説明がされ、活発な意見交換が行われました。

グループ討議の概要

分科会Ａ
（学校再編成、学校評価制度・教員評価制度）

学校と地域とのつながり、少人数での教育効果などの現状と課題について、統廃合に関係した各校の報告から、ＰＴＡとしてどう関わるべきか意見交換が行われました。

分科会Ｂ
（家庭教育、ＰＴＡの活性化）

保護者同士が関係を密にして、地域の大人も巻き込み、「お節介」「子どもを叱れる」「子どもに話かけをする」大人となることで家庭教育の向上に取り組む。研修会の参加率が低い、役員のなり手が少ないなどのＰＴＡ活動の課題に、単Ｐでの工夫の紹介など意見交換が行われました。

分科会Ｃ
（健康と体力づくり）

運動する子としない子の二極化で、親世代より体力が落ちている子どもたちの現状と、たくさんの子どもたちがスポ少で活動しているが、スポ少の勝利至上主義、学校とスポ少の連携などの課題があり、県教委は、平均的に体力を向上させるための改善やスポ少指導者研修会などの対策を実施していることが報告されました。

分科会Ｄ
（いじめや不登校など子どもの人権について）

いじめについて、いじめ予防のための話し合いを行っていきたい、何でも話し合える親子関係が重要、起こったいじめへの対応で保護者と学校の認識のズレがありその解消にＰＴＡとして何をすべきか、その他人権研修会、色覚検査などの意見交換が行われました。

優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰受賞
「連携の輪を広げて 親ぢからアップ」

米子市立明道小学校　明道育英会

明道小育英会では保護者・保護者 OB（明童会）・地域との連携の輪を拡げ、子どもが安心安全に育つ環境づくりや心の育成に取り組んでいます。

“安全に関する行事”としては、地区交通安全協会と連携し道路のストップマーク描き、3 年生の自転車教室、ヘルメット義務化に向けた取り組み、町区別懇談会の開催、子ども自転車全国大会、こどもかけこみ 110 番の家の開拓等があります。活動を通して、安全への意識も高まってきています。

“心の育成”に関しては、中学校区保幼小中学校、育英会の OB 組織「明童会」、地元商店街、保護者同士の連携を図り次のような活動を行っています。研修会や講演会の開催、自尊感情を高める取り組み、児童の頑張りを応援する「明童賞」の授与、稲刈りやもちつき等の農商交流事業、親子のふれあい「わいわいまつり」、保護者同士の親睦を図る球技大会、学年毎の親子行事等です。

育英会だけではできない活動でも、いろいろな機関と連携していくことによって、行事が活性化し、子どもたちへの関わりも濃く充実したものになります。また、いろいろな分野で活躍しておられるベテランの方々とのふれあいが「親ぢからアップ」にもつながると考え今後も活動を続けていきます。

受賞
おめでとうございます
授賞式：11 月 22 日都内ホテルニューオータニ

『優良 PTA 文部科学大臣表彰』
米子市立明道小学校明道育英会、倉吉市立上灘小学校 PTA
『社団法人日本 PTA 全国協議会会長賞』（団体）
琴浦町立東伯中学校 PTA、米子市立明道小学校明道育英会
『第 34 回日本 PTA 広報紙コンクール　文部科学大臣賞』
北栄町立北条小学校 PTA

「魅力ある広報紙作り」

北栄町立北条小学校ＰＴＡ

「茶臼山プレス」は、今から 20 年ほど前、当時の編集委員さんの総意で『紹介型』から『問題提起型』の広報紙へと生まれ変わり、PTA 会員はもとより、校区内の全家庭に配布しています。そして、「学校の行事や出来事をお知らせする新聞のようなものではなく、今現在の保護者の関心事や子どもたちの様子、PTA 活動の実態などを広く読者の皆様に隅から隅まで、手にとって読んでいただこう」を合い言葉に、魅力ある広報紙づくりをめざして編集作業に当たっています。なお、北条地区は小学校と中学校が共に１校で、年に２回は小・中合併号を発行しています。この度の受賞は、「その時期に応じた話題性や保護者に対する啓発性、問題提起、PTA 活動と学校行事的な情報とのバランス」（「日本 PTA 新聞」掲載記事から引用）を高く評価していただいたもので大変嬉しく感じています。

書き手からの一方的な発信に終わることなく、出来あがった広報紙が、家庭の中で、そして地域の間での話題作りの１つのツールになることを願いながら、今後も努力していきます。

そして、これからも諸先輩が営々と築きあげてくださったよき伝統を守りつつ、広報紙「茶臼山プレス」を長く継承していくことによって、PTA 会員はもとより、地域の方々が学校教育に対する関心を高め、よき応援団となってくださる事を願って活動を続けていきたいと思います。

トピックス『いじめに対する取り組み』

「子どもと向き合う」「親同士がつながる」ためのＰＴＡ活動とし、継続して県下一斉にいじめに対する取り組み始めます。

県Ｐ協は、昨年８月 30 日いじめに対する緊急アピールを発信しました。子どもたちが安心して過ごせる家庭・学校・地域とするため、親自身の子育て・家族間の在りようを振り返り、親自身が変わる事を最優先に取り組みます。基本的生活習慣、心の豊かさ、社会性、規範意識等を、家庭で十分育てきれていない事が様々な問題の原因と理解し、子どもたちの育成に努めます。

どの学校でもいじめの芽があることは事実であり、解消には「いじめをしない子」「他者を思いやる子」「傍観者にならない子」に育てる必要があります。そのため、ＰＴＡとして親の学びの場を持ち、保護者同士がつながり、共感し、情報を共有しながら、ともに認め合う仲間づくりを始めましょう。

活動内容は、当協議会ＨＰを参考に、各単Ｐで取り組みをお願いします。

「心のきずな61キャンペーン」について
「忘れない3・11」

詳しくは、http://www.nippon-pta.or.jp「心のきずな 61 キャンペーン」検索ください。

東日本大震災の発生から２年を迎えますが、地震に加え、福島第１原発事故により、今なお多くの方が避難生活をされています。

被災地は復興に向け努力を続けていますが、復興への道はまだまだ遠いものと思われます。子どもたちは、近隣の学校、仮校舎で勉強を続けています。故郷を離れた子どもたちもいます。日本ＰＴＡは、「心のきずな 61 キャンペーン」と題し、被災した子どもたちへ継続した就学支援を行います。（全国にある、61 の「ＰＴＡ協議会」の取り組みから名付けています）

内容は、募金を原資として公益信託基金を設立し、月額１万円（15 歳に達する学年の終了月まで）支援する活動です。

対象者は、東日本大震災を起因とする孤児・遺児です。但し、平成 23 年度４月１日現在で小学校又は中学校（又はこれに準ずる学校）に在籍する児童、生徒です。既に卒業した児童・生徒にもさかのぼり支給を予定しています。平成 24 年度以降は中学校を卒業した生徒は外し、新たに小学校に入学した児童を対象に加えます。

単位ＰＴＡに募金箱とポスター（各 1）を配布しますので、ＰＴＡ活動の際や、子どもたちと協力し通年の取り組みをお願いいたします。このキャンペーンの一環として、街頭募金も行います。

今年は3月 10 日（日）午前中（10:00 ～ 12:00）にイオン日吉津店で行います。ご協力お願いします。

中学生の国際交流！
第26回日中友好「少年少女の翼」

昨年３月日本ＰＴＡが主催の国際交流事業「少年少女の翼」が行われました。これは、少年少女が国際化社会での活躍を願い、日中友好親善を深めつつ、視野を広め心豊かな青少年を育成する事業です。この交流事業は、昨年で 26 回目を数え、東日本大震災で中止となった一昨年の 14 名を含む、全国から 137 名の参加者が訪中しました。両国には、様々な問題がありますが、子どもたちはすぐに打ち解けた様子で、この様な民間交流・文化外交が関係改善への手立てになるのではと思います。県内から参加した２名の感想を掲載します。

「心に残る６日間」　勝原 さん

今回私が参加した日中友好「少年少女の翼」で、特に心に残った思い出が二つあります。

一つ目は、北京師範大学第二附属中学の生徒との交流です。慣れない日本語で必死に伝えようとしてくれて、とてもうれしかったです。しかしそれと同時に、私もちゃんと中国語を学んでおけばよかったと反省もしました。でも、こんな短い時間で仲良くなれるとは思っていなかったので、とても印象に残っています。

二つ目は、中華料理です。毎日ほぼ三食中華料理だったけど、全然飽きずおいしかったです。「なんじゃこりゃあ」っていうものもあったけど、それはそれで思い出になりました。特に最終日の北京ダックは衝撃でした。料理の名前は良く聞くけど実際に食べた事はなかったのでとても楽しみでしたが、想像以上のおいしさに感動しました。北京ダックはぜひ、もう一度食べたいです！！

この６日間は私にとって忘れられないものとなりました。日本中、そして世界にまで友だちができたということがとてもうれしく思います。また、今回の研修に参加したことで、改めて世界へ出たいという思いが強くなりました。今回、この研修に参加させていただき、本当にありがとうございました。

「心に残る研修」　森川 さん

僕は、日中友好「少年少女の翼」に参加して、数多くの貴重な体験をさせてもらいました。

中国は、世界地図で見て大きな国だなあと思っていたけれど、実際に行ってみて、そのスケールの大きさと歴史の長さを実感することができました。

特にそれを感じたのは、万里の長城と故宮です。見渡す限り続く万里の長城に、一体どれだけの人がどれだけの時間をかけてこんなに大きなものをつくったのだろうと驚くばかりでした。故宮もものすごい広さでした。ガイドさんに聞いたところ、故宮の色はいろいろな意味を表しているそうです。赤は火と血、青は空、緑は大地、金は皇帝だそうです。故宮はそれらの色があふれる美しい建造物でした。

そして、一番心に残ったのは、たくさんの友だちとの出会いです。北京師範大学第二附属中学の生徒との交流では、片言の英語で身振り手振りを交えて必死に話したい事を伝えました。がんばったらなんとなく伝わるもので、二人の人と友だちになりました。北京師範大学第二附属中学の生徒は英語がとてもうまくて二人ともペラペラでしたが、僕の下手な英語を一生懸命聞いてくれました。伝えたいと思うことが大切なんだなと思いました。

日本中から一緒に行った人たちとも仲良くなりました。全国にたくさんの仲間ができたことも、大切な思い出です。こんな貴重な体験をさせてもらって、ありがとうございました。これからの学校生活に生かしていきたいです。

編集後記

さて今回の広報はいかがでしたでしょうか？

県Ｐ協の活動として本年度から《いじめ》に対する活動を強化していきます。

各単位 PTA でできる事からして頂きたいと思っています。

県Ｐのホームページに活動例が出ていますのでこちらもご参照ください。

最後に受験生の皆さんの希望校全員合格を祈念して・・・

（恩田正重）

広報委員会

委員長　中江　巧
副委員長　矢田貝香織
委　員　恩田　正重　本池　平二　松田　正　青山　和之
江尻　安夫　片寄　幸江　大前　満　川田　修一
荒木　憲男　田邊　昌宏　山口　一樹　門脇　栄子
高橋　宏　吉村　依子　勝部　武史　本多　正悟
部谷　一信　谷村美穂子　山根　哲也　船越　延子
塚本　千賀　若月美和子　西垣　滋　谷口八千代
徳田　繁　青戸　晶彦　松本　範史　平井　博之
金田　康宏　福間　晃　遠藤ひろみ

今後は、ホットな情報をタイムリーに発信します。ご期待ください。■ＨＰアドレス■　http://www.tottori-pta.net/